次世代自動車センター浜松　活動レポート　Vol.195

■　３Ｄプリンタ実用化プロジェクト 全体プロジェクト活動
第１回「３Ｄプリンタ最新技術動向セミナー」

次世代自動車センター浜松では、３Ｄプリンタによる樹脂製補給部品の試作品製作に関する支援のため、昨年度に引き続き「３Ｄプリンタ実用化プロジェクト」として、全体プロジェクト活動と個別プロジェクト活動を展開しています。

個別プロジェクト活動としては、完成車メーカーと会員企業で構成するチームによる樹脂製補給部品の試作製作を実施し、全体プロジェクト活動としては、「３Ｄプリンタに関する情報を収集し共有する」取り組みを行うこととしてします。

今回、全体プロジェクト活動の一環として、作年度に引き続いて SOLIZE 株式会社様を講師にお迎えし、「多品種少量時代を生き抜く、企画・設計の考え方～最終製品に３Ｄプリンターを取り入れた国内事例を交えてご紹介～ 」 というテーマで講演会を開催しました。

■日　時 ： 令和５年８月１０日（木）10 時～11 時 30 分
■場　所 ： 浜松商工会議所会館会議室
■参加者 ： ５社/２５名

＜開会＞

＜望月センター長挨拶＞

＜SOLIZE㈱ 櫻井様 講演＞

＜質疑応答＞

＜まとめ＞

【参加者の声】

・AM を適用する部品選定の考え方がよく分かった。
・AM の設計・評価の考え方について理解できた。
・市場は３D プリンタの活用を試作から量産品に動きつつあることが理解できた。
・AM 化のメリット・デメリット、既存工法との組み合わせでの最適化の例について知ることができた。
・AM の考え方の基本を学ばせていただいた。3D プリンタを使用するという手段ではなく、目的を明確に進めることが重要と感じた。思っていたより多い数量でも活用できる可能性ありそうで検討の幅を広げられる。
・新部品の企画の時点で既存工法と AM とプロダクトサイクル（不具合、製造時、使用時も含めて）で考えて、比較の必要がある。テーマ選定プログラムを実施されている。
・既存工法を既存＋AM にする際に実際何を AM 変更すれば有効性があるかを検討するフローが確立していることの紹介があった。
・３D プリンタの導入に向けて、どのように部品の分析、適用検討、評価のプロセスが大変参考になった。
・３D プリンタの世の中の活用方向が理解できてよかった。３D プリンタでしかできない製品・機能を金型で作った製品と組み合わせて新しい商品を考えるきっかけとなった。
・AM 工法は既存工法の延長ではないと思っていたため、既存製品に AM 工法を混ぜて検討する考え方は新鮮で勉強になった。価値の具体化も広い視野で考える必要があると感じた。
・AM 技術を活用して生産していくためには設計の考え方や評価の考え方について明確にしないと難しいことを知ることができて勉強になった。
・各業種への導入状況、進捗状況を確認できた。３D プリンタ品の導入検討手順まで分かりやすくご説明いただけた。